

ボンドの使用

ボンドは、シート（マット）同士、シート（マット）とコンクリート躯体などを接着するのに有効な資材です。隙間からの雑草発生の抑制、風の吹込みの防止などに効力を発揮する施工方法です。

※シート（マット）同士、コンクリート躯体などとの固定には、ボンドを御使用下さい。マルチング接着テープは、切込みなどを塞ぐ場合に使用する補修用資材です。

※一部、ボンドとの相性の良くない製品が御座いますのでお問い合わせください。

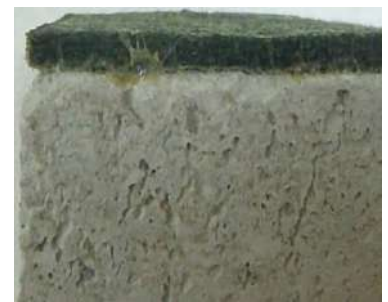
○ボンド使用例



ボンド不使用、隙間からの
雑草発生



シート（マット）同士の接着



シート（マット）とコンクリート
との接着



コンクリート製架台と接着



擁壁との接着



道路端部と接着



施工前



施工後
マット同士・マットとU字溝
マットと縁石を接着



インター合流等の視認性を確保

【ボンドの施工方法】 EASY チューブ

① 対象物の清掃



躯体などに接着する場合は、接着不良の原因となりますので埃、砂、土などを十分に取り除いて下さい。

また、湿ったコンクリートや新しいアスファルトなどの水分や油分を含む物には接着出来なかったり、接着力が極端に低くなる場合があります。

② 塗布



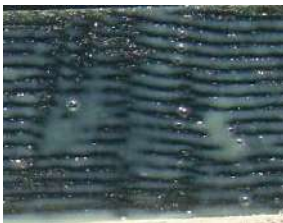
15kg 缶を使用する場合は適当な容器に取り出し塗布します。ボンドを伸ばす際は、金属・プラスチック・ゴム・シリコン等のヘラや先が楕目になったスクレーパーなどを使用すると便利です。刷毛はすぐに毛の部分が固まってしまうので使用には向きません。



300cc カートリッジタイプを御使用の場合は、コーキング剤などに使用する一般的なカートリッジガン
を別途御用意下さい。



③ 接着



塗布をしたボンド表面に小さな気泡が浮いてきた時が接着タイミングです。気温などによりオープンタイムに差がありますので、現場での確認をお願いします。C-3 シリーズは透水性が良いので乾燥時期などはマットにボンドが吸われますので、早めの接着が良施工のコツです。

④ 圧着



接着後は、十分に圧着させしっかりと止めて下さい。木槌などで軽く叩くと効果的です。

また、接着施工翌日など、接着不良がないかの点検をお願いします。

15 kg 缶で御使用の場合は、写真の様な市販の容器に移し替えると便利です



塗布工を追いかけるようにスクレーパーなどで伸ばして行きます。平地の直線な場所の施工で、非常に効率の良い方法です。

注意：容器の口は対象物に近い、低い位置で流して下さい。特に強風時の施工は、ボンドの飛散に注意下さい。

雨天時、対象物が濡れている場合はボンド施工を控えて下さい。